

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	耐火造建物の火災防御中、強い熱気及び熱水により後頸部、両手首部に熱傷を負った事例
3. 体験した事例の中心的要素	最先着隊の小隊長として、耐火造建物（地上 6 階地下 1 階建て）の 5 階出火室に玄関から放水しながら進入した。2メートル程進入したところ、熱湯となった消火水を全身に浴び、首の後ろと両手首に熱傷を負った。小隊長は、熱さを感じたが消火活動を継続し、さらに強い熱さと痛みを感じたことから、一旦屋外に退避し、確認したところ、頸部及び両手首に水泡ができていた。（後頸部、左右手関節部Ⅱ度熱傷）。
4. 体験した事例の原因・理由	個人装備は完全着装しており、しころもしていたが、耐火造建物火災での熱気及び熱水を浴びながらの活動であったが、天井に向けて放水した際、防火衣の袖口が上を向き、熱水が入り、熱傷に至った。

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 18 年 5 月 25 日 午後 9 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋内：
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	火傷・熱傷、
7. 事例体験時の活動	火災、現場活動中期、 [耐火造建物、]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	放水活動、
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[44]歳、勤続年数[21]年、現場経験年数[20]年、階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1		出火報覚知	
経過2		現場に最先着し、火点室に第1線を延長した。	
経過3		強い熱気及び熱水を浴びていたが、退避、進入を繰り返し、消火活動を継続した。	
経過4		更に強い熱気を感じつつ、空気ボンベ交換のため脱出した。	
経過5		首と手首に強い痛みを感じたため確認すると、首の後ろ、両手首に水泡ができていたので報告した。	
経過6		救急隊により病院搬送され、後頸部、両手首Ⅱ度熱傷と診断された。	
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

その他：火勢制圧に集中しすぎ、熱気を感じなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

特別救助隊と進入したが、

○活動環境の対策について

特別救助隊到着後、共に同じ場所に進入したが、特別救助隊はほふくの検索体系で進入し袖口が床に対して下を向いていたため熱水が直接入り込まなかったことから受傷を免れた。このことから、耐火造建物火災のように内部が高温に鳴る場所での活動は、努めて姿勢を低くするほか、袖口や襟部分等、開く可能性のある部分について
--

○指揮・情報伝達の対策について

--

○事件事例:耐火造建物の火災防御中、強い熱気及び熱水により
後頸部、両手首部に熱傷を負った事例

(07J0032)

・発生日時 :平成18年5月25日 午後9時頃

経過	現場の状況	隊員A	備考
		隊員／消防士長 ・年齢 44 歳 ・勤続 21 年 ・現場 20 年 ・同様の活動:頻繁	
	耐火造建物(地上6階地下1階建て)の5階出火室 耐火造建物火災での熱気及び熱水を浴びながらの活動であった	出火報覚知	個人装備は完全装着しており、しころもしていた。
		現場に最先着し、火点室に第1線を延長した。	
		玄関から放水しながら2メートル程進入した。	
		天井に向けて放水した際、防火衣の袖口が上を向き、熱水が入り、熱傷に至った。	
		強い熱気及び熱湯となった消火水を全身に浴び、首の後ろと両手首に熱傷を負った。	
		熱さを感じたが、退避、進入を繰り返し、消火活動を継続した。	
		更に強い熱気を感じつつ、空気ボンベ交換のため脱出した。	
		首と手首に強い痛みを感じたため確認すると、頸部及び両手首に水泡ができていたので報告した。	
		救急隊により病院搬送され、後頸部、左右手関節部Ⅱ度熱傷と診断された。	

◎事故が起きたのはどうしてだと思うか？

- 直接的な原因:
- その他:火勢制圧に集中しすぎ、熱気を感じなかった。

◎事故が起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
- (活動環境について)
- ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。